

## 第21回日本時間生物学会学術大会開催のお知らせ

2014年度学術大会を下記の日程で開催します。日程のご予定をお願いします。演題申し込みは例年よりはやめで、5月下旬を予定しております。奮ってご参加いただきますようお願いします。

学会の国際化の方針を踏まえ、要旨は英語とします。発表資料も図表は英語で示すなど外国の方にも理解できるよう配慮してください。

学術大会の前日には、国際シンポジウムを開催します。ポスター発表も受け付けますが、すべて英語で行います。奮ってご参加いただきますようお願いします。

詳細は、ホームページに随時アップしますので、ご覧下さい。[www.21jsc.org/](http://www.21jsc.org/)

第21回日本時間生物学会学術大会 大会長  
九州大学薬学研究院 大戸茂弘

会期：2014年11月8日（土）－9日（日）

会場：九州大学医学部 百年講堂

テーマ：「時間生物学の進歩と新たなる展開：異分野連携」

### プログラム

一日目午前は基礎系—臨床・社会系に分けず、学会の趣旨説明もかねて特別企画シンポジウムを開催します。この目的は、大会のテーマである「時間生物学の進歩と新たなる展開：異分野連携」の趣旨説明でもあり、その後のシンポジウムを展開する上での基軸となるものです。

一日目午後からは基礎系—臨床・社会系に分けて開催します。いずれのシンポジウムでも植物から哺乳類までを対象として、異分野連携について討議していただきます。ポスター発表も一日目に十分時間を取って行います。またポスター賞は大会に参加された評議員の投票をもとに、委員会で決定します。

### <11月8日（土）>

・シンポジウム

特別企画シンポジウム：時間生物学の進歩と展望

シンポジウム1：概日時計システムの共通性と多様性

シンポジウム2：時間生物学の次世代を切り拓く新技術：植物からヒトまで

・特別講演

「分子—細胞—個体としての生体リズム」岡村 均 先生（京都大学薬学研究科）

### <11月9日（日）>

・シンポジウム

シンポジウム3：概日時計機構における生物の各レベルでの連関：分子から個体まで

シンポジウム4：概日時計を活用した疾患の予防・診断・治療

シンポジウム5：環境応答と生物時計—若手による学際性入門

シンポジウム6：時間生物学の産業応用：植物からヒトまで

シンポジウムのタイトルはプログラム委員会案で、理事会の承認を得ておりますが、すべて仮題です。大会の案内をお送りするまでに、内容を決定します。

### <11月7日（金）>

学術大会の前日には、国際シンポジウムを開催します。ポスター発表も受け付けますが、すべて英語で行い

ます。奮ってご参加いただきますようお願いいたします。

**Subject** : International Symposium by JSC (Japanese Society for Chronobiology) in 2014

**Date** : November 7 (Fri), 2014 09 : 00 ~ 17 : 00

**Venue** : Centennial Hall Kyushu University School of Medicine

**President** : Shigehiro Ohdo

**Organizer or Sponsor** : JSC (Prof Takao Kondo, Prof Shizufumi Ebihara, Prof Sato Honma)

**Theme** : "The advance and future trend of chronobiology in the world: collaboration between different fields of chronobiology (from plant to human)"

**Topics** : Historical background, Cyanobacteria, Insect , Mammal, Human

<11 : 00 ~ 12 : 00>

Poster Session